

第4分科会テーマ 教科別の指導 音楽

楽しさから達成感につなげる音楽活動を目指して ～担任と音楽専科の効果的な連携について～

提 案 狭山市立山王小学校 教諭 丸泉 早苗

1 はじめに

音楽の授業は週2回。児童の実態をよく知る担任が行う授業とはやはり違う。本校は専科一人ではなく、音楽の授業に参加する児童によって、担任や介助員と連携して授業を行っている。その様子を報告する。

2 学校・学部・学級等の概要

(1) 学校概要

本校は全校児童409名。1学年2クラス・風の子学級4クラスの中規模校である。学校の周りには、お茶畑（狭山茶）や里芋畑が広がり自然も残る地域である。長くこの地域に住んでいる人も多く、親子二世帯に渡って山王小学校に通っている家庭もある。

(2) 風の子学級について

風の子学級は、21名の児童が在籍している（1学年5名・2学年4名・3学年4名・4学年4名・5学年3名・6学年1名）。知的1クラス、情緒2クラス、病弱1クラス合計4クラスに分かれている。教育内容等によって、学年グループを中心に学習することも多い。また、交流授業に参加する児童もいるため、交流学年の取り組みや運動会や校内音楽会の学年練習も参加しやすくなっている。

3 取組の実際（具体的な実践）

本校は校内音楽会を11月に実施している。児童は風の子学級の発表の他、各学年の演奏にも参加している。この音楽会が児童にとって実りある学校行事となるために見通しを持ち、授業を進めてきた。そこで、一番大事にしたことは、45分の授業の中で教師が児童へ何ができるようになったのかを明確に伝えることである。めあてを意識させ達成感を味わわせることを繰り返し、自己肯定感を高めていくことを目指した。更に、教科別の指導計画をもとに、担任の教師や特別支援学級介助員と効果的な連携を図ることで、より児童の成長が期待できると考え以下のように取り組んだ。

(1) 指導計画（ここでは校内音楽会までを記す）

各教科の指導計画をもとに、個別の「各教科等での指導目標」の達成を目指した計画を立てた。児童と教師（介助員も含め）ゴールを見据え、目指す児童像を共有した。

ね ら い	
4月	◎人間関係づくり ・音楽を通して子供の感性や表現力を育てる＝リトミックの要素を取り入れる。 ・音楽に合わせて体を動かす「リズム運動」と自由に音楽を表現する「即興演奏」を中心に行う。 （「よいこのリトミック3」 遠藤蓉子・著 サーベル社）
5月	◎既習曲で歌声のイメージをつかむ。 ◎星をイメージした音をつくり、合奏につなげる。
6月	◎人前での発表を体験する。 授業参観「ビリーブ」斉唱 「きらきら星」合奏
7月	1学期のまとめ
9月～ 11月	◎明るい声で、友達と声を合わせて歌えるようにする。◎みんなと合わせて合奏する。 ◎個々の指導目標の達成を目指す。校内音楽会「チャレンジ」斉唱 「ミッキーマウスマーチ」合奏

(2) 専科・担任・介助員の基本的な動き

一斉指導の中で児童が「もうやらない」となった時、①担任や介助員が一人ひとりに向き合い話を聞く。②原因を明らかにし、児童にアドバイスして次の活動につなげるようにする。③そこで終わりにするのではなく、専科教員と情報共有をする。④専科教員は次の活動の際、出来るようになったことを必ず認める。⑤そしてみんなで児童をほめる。この①～⑤を繰り返し行っている。

人間関係づくり ジャンケン列車

「負けたくない。やりたくない」と言っていた児童も4月の終わりにはみんな楽しくできるようになった。

歌唱指導の場面 今月の歌「すてきな一歩」教育芸術社 5年

めあて 明るい声で、声を合わせて、歌詞にこめられた気持ちを感じ取って歌おう。

専科：この声、明るくていいよ

担任：いいね、いいね！



- ・めあてが達成されていることを専科が児童に伝え、それを担任が更にほめる。ほめても児童が受け入れない時にはよく話を聞き、次に生かした。
- ・歌唱で全く歌わない児童には、小さいお気に入りの人形を持たせ、その人形を通して声を出すイメージで行った。

(3) 器楽指導における工夫

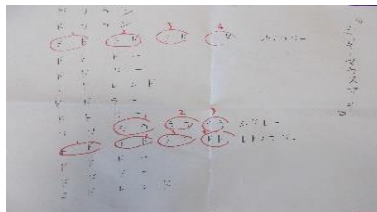
授業後、担任の先生がしてくださった個に応じた工夫

① リコーダー



滑り止めをつけて吹きやすくした。

② 楽譜



同じ音が続くときは、1拍を○で囲み、それを何回繰り返すか回数を記入している。1小節で段を変えたり、2小節つなげて書いたり児童の様子を見ながら児童に合わせて楽譜を変えている。

4 成果と課題

音楽が楽しいと思っている児童が多いのは、専科、担任、介助員が連携し授業を行っている成果だと思う。音楽は教科の特性もあり、普段の授業の延長に発表の場を設けることでより児童の成長を見ることができる。校内音楽会だけでなく、4年生は市内音楽会にも参加をし、我が子の成長を喜ぶ保護者の声も聞くことができた。楽しいだけで終わるのではなく、できるようになった自分が明確になったことが児童の自信につながったと思う。

課題は、自立活動の時間にもリコーダー等練習を入れてもらったが、校内音楽会前はやはり音楽に時間が割かれたと思う。他の教科とのバランスも大事にしなければならないし、担任の先生の負担も考えなければいけないと思った。

5 おわりに

音楽がただ楽しいだけでなく、「できた」という達成感につなげていくことはやはり大事であり、そのためには、教師間の連携は欠かせない。今年度だけでなく、今後も続けていきたい。

本校の児童は、季節の歌や鑑賞が好きなので、4月に「さくらさくら」箏の演奏をデジタル教科書を使用して聴き、ワンプレーズ実際に演奏も行った。生活とつなげて音楽を楽しんでいけるような心情を今後も育てていきたい。